



## 図書館・創世ホールトイレ改修工事について

～トイレの改修工事を行います～

和式から洋式への変更、自動水栓化、照明等センサー化など行い感染防止対策強化と利便性を高めます。  
下記の通り順次工事予定です。

- ① 3階多目的ホールトイレ：8月上旬完了
- ② 2階トイレ：8月8日ごろ～8月末頃
- ③ 1階図書館内トイレ：8月下旬～10月中旬

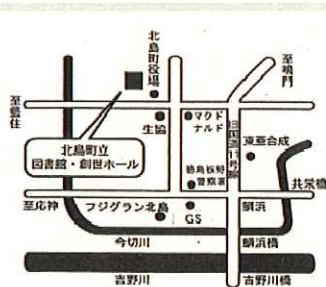
使用できない期間、別の階のトイレをご使用ください。  
利用者の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力いただけますようお願い申し上げます。  
予定は変更になる場合があります。ご了承ください。

## ※創世ホールに来場される方へ※

▼入場される方には、マスクの着用と手指のアルコール消毒をお願いいたします。

▼観客同士の距離を一定の間に保つため、3階多目的ホールの座席数を減らしております。(前後左右を1席空けてお座りいただくようにしております)

■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



## 北島町第16回四季の舞発表会

7月31日(日) 正午～午後4時

会場：3階多目的ホール

入場無料

主催：同好会「四季の舞」(藤田 ☎088-698-5548)

後援：北島町教育委員会・北島町文化協会

※上記の催しは延期になりました。↑

## 第30回北島町平和のつどい

8月6日(土) ① 午前10時 ② 午後2時

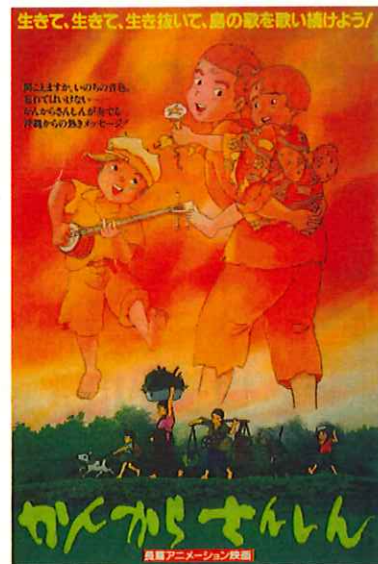
会場：3階 多目的ホール 入場無料

上映作品：「かんからさんしん」「忍たま乱太郎」

上映時間：105分

共催：北島町・北島町平和のつどい実行委員会

(代表：高橋 ☎088-698-4119)



■沖縄には独自の歴史、文化があり、そのシンボルとして三味線(三線・さんしん)があります。かんからさんしんとは空き缶と棒や落下傘のひもなどで作った三線のことである。戦中から戦後にかけて収容所や疎開先で作られた。戦火をくぐり抜けてきた人々を慰め、復興を目指す心の支えとなってこの伝統文化は受け継がれてきたのである。

同日開催：沖縄・広島、長崎原爆写真展  
2階ギャラリー

## 江富久雄子ども写真展

8月19日(金)～21日(日)  
午前10時～午後5時

会場：2階ギャラリー

入場無料

主催：江富写真館

(☎088-698-6888)



## 第9回松岡貴史&みち子作品展

小川明子、加来徹が歌う  
新作日本歌曲コンサート—徳島公演—

8月30日(火)

開場：午後6時00分

開演：午後6時30分

会場：3階 多目的ホール

入場料：(全席自由) 3,000円

演奏 小川明子 (アルト) 加来徹 (バリトン)  
松岡貴史 (ピアノ) 松岡あさひ(ピアノ)

チケットの販売

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード:217705

北島町立図書館カウンターでも購入できます。

その他取扱：黒崎楽器(本店 088-653-6614・阿南センター・鳴門センター・ユニスタイル藍住)、平惣全店

チケット予約・お問い合わせ 090-6283-4670 (松岡)

主催：「松岡貴史&みち子」

後援：特定非営利活動法人 日本現代音楽協会

一般社団法人 日本作曲家協議会

東京藝術大学音楽学部同声会

## 追悼★吉田文夫さん(上)

アイルランド音楽演奏界の重鎮を偲ぶ

●小西昌幸(元北島町立図書館・創世ホール館長)

■日本におけるアイリッシュ音楽奏者の草分け・吉田文夫さんがお亡くなりになった。吉田さんは、創世ホールと大変深い関わりのある方であり、日本有数のボタン・アコーディオン奏者であり、日本におけるアイルランド音楽紹介のすぐれたオルガナイザー、プロデューサーだった。残念でならない。1997年秋に、当館が開始した《北島トラディショナル・ナイト》シリーズは、吉田文夫さんを抜きにして、到底語ることはできない。ここに生前の交流などを記録して、その業績とお人柄を偲ぼうと思う。

■吉田文夫さんは、1954年7月21日生まれ。兵庫県宝塚市に住んでおられた。日本におけるアイルランド～ケルト伝統(伝承)音楽の普及に多大な貢献を果たした。ここ数年は、がん闘病の中、可能な限り演奏会活動も行なっておられた。その温厚なお人柄から、多くの演奏家から慕われた。今年(2022年)7月22日に天国に旅立たれた。享年68。私より2歳上である。

■吉田文夫さんと初めて連絡を取ったのは、1990年代初めだった。私は趣味で作っているミニコミ『ハード・スタッフ』の関係で、関西パングの音楽家達と交流がある。交流を深めた時期(直接会って知り合った時期)は幅があるが、1989年頃から90年代半ばにかけて、林直人氏(故人)、非常階段のJOJO広重氏や美川俊治氏、渚にての柴山伸二氏、元スーパーミルクの西村明氏、高山謙一氏(イディオット・オクロック～ツメタイキノママ…)という方々と親しくなった。皆、知的な思索家の側面を持つ読書家でインテリの音楽家だった。面識を得たのはその時期だが、1970年代後半には、ミニコミを通じて私の存在はご存じだった。ミニコミを京都の《どらっくすとうあ》などに納品していたので、彼らは読んでくれていたのだ。

■そして、柴山伸二氏(大阪府羽曳野市)と西村明氏(滋賀県近江八幡市)には、1980年代終わりに面識を得て、ミニコミの特集(関西アンダーグラウンド・シーンの一断面)に執筆者として全面的に協力いただくことになった。そんなこともあって、お二人の家には何度か泊めてもらった。吉田文夫さんと氏のバンド、シ・フォークのことは西村明さんのご自宅でご教示を得た。LPを見せられて、連絡先をメモし、帰宅してから直接吉田さんに連絡して、送金し、入手した。吉田さんにはサインもしていただいた。この時にはまさか、数年後に私の手で吉田さんのグループを北島町に招くことになるとは夢にも思わなかった。ましてその後、今日まで(約30年間も)お付き合いすることになるなど、神様以外誰も知らぬことだった。

■私は、10代半ば(高校)の頃から英国のロックが好きで、特にジェスロ・タルというグループが好きだった。きちんと全部集めるようになるのは、これまた西村明さんのご教示(20周年ボックスに魅せられた)がきっかけなのだが、ジェスロ・タルには、英国伝統音楽(伝承音楽、トラディショナル・ミュージック、トラッドともいう)に根差した音楽性の漂う曲があり、それはアイルランドの伝統音楽のすぐ隣にあった(よく似た雰囲気、共通の要素があった)。また、ジェスロ・タルは、ある時期は、リズム隊がフェアポート・コンヴェンションのメンバーと重なっていたこともあり、自然とケルト～アイリッシュ音楽の領域にも関心が向かうことになった。

■アイルランドの伝統音楽に関心を持つきっかけは、各人様々だろうが、私の世代は、英国ロックが入り口になったケースが多い。坂上真清さん(ケ

ルティック・ハーブ演奏の第一人者)がそうだし、吉田文夫さんもそうだとおっしゃっていた。だから吉田さんは英国ロックにもお詳しく、ウィッシュボーン・アッシュの名盤「アーガス」なども聞き込んでおられた。

■1956年生まれのは、1979年に北島町役場に就職し、保健福祉、農業、税務、住民課、選挙事務、広報広聴など地方行政の現場の様々な部署をまわった。そして、1994年6月、町に複合文化施設《北島町立図書館・創世ホール》ができて、同年8月の人事異動で、そこで仕事をするようになった(管轄は教育委員会、館は社会教育施設という位置付け)。施設管理と、催しの企画広報が仕事の内容である。音楽演奏会シリーズでは、徳島ギター協会の川竹道夫さんのお知恵や力を借りながら、《北島クラシカル・エレガンス》というシリーズ名で、タブラトゥーラ(&波多野陸美)、ダンスリー・ルネサンス合奏団、平井満美子+佐野健二、カテリーナ古楽合奏団などの古楽(アーリー・ミュージック)を中心に続けた。《北島クラシカル・エレガンス》シリーズは一定の予算を組んで、毎年2月頃に開催したが、小泉改革で全国的に地方財政が厳しくなった時期に、野坂恵子+小宮瑞代「伊福部昭の箏曲宇宙」(2004年2月、伊福部昭先生卒寿記念祭の一環)を最後に、打ち止めとなった。

■《北島トラディショナル・ナイト》は、1997年の秋に始めた。その事情を少し詳しく記しておく。普通、公立文化施設が何か催しを企画するときには、起案文書(伺い)を回す。だが、このシリーズの最初の企画書の起案文書を回したとき、総務課で決裁が下りなかった(途中で判を押してくれなかった人がいた)。当時、演奏会に使える町予算の残が少しあり、入場料収入と合わせたら何とかなるのではないかという発想で、進めようとした企画だった。例えば仮に、その催しが全体で40万円程度かかる事業だったとして、その内の20万円は予算にあるので、残り20万円をチケット販売で何とか補填して事業をします、という趣旨で伺い文書を作成したのだが、これは、リスクがあるとして認められなかったのだ。もしも仮に19万円分しかチケットが売れなかったら、残る1万円をどうするのか、職員が負担するのか、そんな事業は危険だから認めない、なぜ当初から40万円組んでおかなかったのか、という意見があり、決裁は下りなかったのである。

■それはそれで筋が通っているのだから、私は町のお金に頼ることはやめようと思った。だが催し自体を取りやめるわけにはいかない。腹を括って、出演料(旅費や宿泊費を含む)は全て入場料収入でやりきることにした。もちろん、民間で通常の催しをしている人には、赤字が出たら、ポケットマネーなりなんなりで補填するのは当たり前のことなのは、認識承知している。当然のことだ。だが、公立施設では、なかなかそうもいかないことも当然である。私も他人(行政機関で働く人)に奨励することはしない。

■この時に力になってくれたのが当時の直属の上司(館長)の小山建夫さんで、「赤字が出たら君が負担する気なのか。よし分かった。その時はわたしも出してやる」と言って背中を押してくれたのだ。意気に感じるというか、男気のある方だったので、その人に恥をかかせるわけにはいかないという思いで、ますます頑張ろうと思ひ、腹をくくることになった。

■もう一人大きな存在が、徳島ギター協会会長の川竹道夫さんだ。川竹さんは、同志社大学のギター部を経て尚美音楽学園卒業。東京でクラシックの楽団に所属したり、音楽学校の講師や、映画音楽などの仕事をしていたプロの方で、1977年にご家庭の事情で徳島に帰郷。その時期既に、ダンスリー・ルネサンス合奏団やタブラトゥーラと普通に交流がある方だった。氏はエライ人で、1978年に、徳島市でダンスリー・ルネサンス合奏団の演奏会を実現しておられた(10年後に知り、驚愕したことをよく覚えている)。

■もともと私は、1988年に脱原発の市民グループの活動で、川竹道夫さんと親しくなったのだ。音楽の趣味で、よく似た時期から欧州の伝統音楽に二人の関心が向かったのだ。川竹さんがエストラダという民族音楽のグループを作ろうとしていた頃、英国のフェアポート・コンヴェンションや、ステイーライ・スパンなどのCDをお貸ししたこともある。

■川竹さんに相談して、演奏会へのお手伝いをお願いした。以来二十数年間、川竹ファミリーはずっとこの催しに家族ぐるみでご支援くださっている。CD売り場や受付の応援に、奥様やお嬢さんや生け花教室のお弟子さんが立ってくださっているのである。

■第1回北島トラディショナル・ナイトは、1997年11月14日「アイルランド音楽のタバ/シ・フォーク・コンサート」として開催した。シ・フォークは、吉田文夫、赤沢淳、原口豊明(のちにトヨアキ)という編成である。

■この催しは、新聞記事などにも取り上げられて、さらにスターレコードの三宅店長(ワールドミュージック系全般の愛好家で、沖縄音楽にも詳しくだった)が、FM徳島出演の橋渡しなどをして下さり、電波での展開もできた。来場者は予想を超える230人だった。シ・フォークの演奏会は成功し、吉田さんは「徳島は、何でこんなに熱いんですか」と驚かれた。以後、創世ホールの活動をとても気かけ、応援して下さるようになった。

■また、特筆すべきこととして、この日の演奏会の音源を川竹道夫さんが、吉田さんに提案して、CD化して、吉田さんたちにプレゼントしたことがあげられる。限定私家版として、数枚作り関係者にのみ配布したのである。ジャケットの写真撮影者は、江富久雄さん(北島町・江富写真館)。CDケース裏面には、《企画監督=小西昌幸、録音技術=加藤明夫、編集制作=川竹道夫》のクレジットがある。この音源は後に、「シ・フォーク・ルーツ」という一般流通したCDに5曲使用された(1998年7月発売)。

■こうして、出演料に関して町の予算を頼らずに《北島トラディショナル・ナイト》を年一回やっていける道筋がついた。25年前のことだ。気を抜くと直ちに悪い実績となって跳ね返るので、毎回、死に物狂いで頑張った。

■吉田さんは、《北島トラディショナル・ナイト》の最多出演者だ。下に、その出演記録を掲載しておく。各欄左端の数字はシリーズの通算回数。

- 1 1997年11月14日◎シ・フォーク「アイルランド音楽のタバ」
  - 2 1998年11月6日◎ディンクルズ・ヴュー「アイリッシュ・ハーブの世界」\*坂上真清(さかうえますみ)+吉田文夫+赤沢淳
  - 10 2006年10月29日◎シ・フォーク「アイルランド音楽の午後」
  - 15 2011年11月27日◎マックフィドルズ(+吉田文夫)「晩秋のケルト」
  - 19 2015年11月1日◎ケルトシトルケ・オールスターズ「てんこ盛りアイリッシュ音楽」\*ココペリーナ、鞆座(ふいござ)、ディンクルズ・ヴュー(創世メモリアル・坂上真清ユニット=坂上氏による最優秀選抜特別編成 坂上真清+吉田文夫+金子鉄心+さいとうとまこ)
  - 20 2016年11月22日◎マスカーズ「ケルトの歌、やすらぎの調べ」\*高野陽子+kumi+吉田文夫+笠村温子+原口トヨアキ
- 2022年7月1日、ダンスリー・ルネサンス合奏団の岡本一郎さんがお亡くなりになった。そして22日には吉田文夫さんが旅立たれた。岡本さんは兵庫県西宮市の人だった。兵庫県は、いや日本は、今年7月に、古楽界とアイルランド音楽界の重鎮を立て続けに失ったのである。(次号に続く)

